

2016年6月27日(月)

神奈川新聞 教育面掲載

ザ・チャレンジ

## ザ・チャレンジ

(大学受験編)

夏休みまであと1カ月を切り、高校3年生も部活動を引退して、いよいよ本格的な受験勉強に取り組み始めているのではないのでしょうか。夏休みは最も学習量・時間が確保できる重要な時期。この重要な時期を漠然と過ごすことがないよう、まずは計画を立てましょう。第1志望校に合格するために、この時期どのような学習がどのくらい必要になるのか、具体的な内容をしっかり考えて計画・実行することが大切です。計画がないまま学習を始めてしまうと、せっかくの貴重な時間を無駄に過ごしかねません。そして計画を立てるためにはまず目標を定めることが必要です。

夏休み中に達成したい目標は、センター試験レベルの基礎を固めること。そのためには①各科目の基礎知識を一通り固める②センター試験の過去問10年分の演習に取り組み基礎演習を行う③苦手科目の克服一が重要になります。

## Q. 夏休みの勉強のポイントは？

過去問演習は受験勉強の中でも特に必要な学習内容です。大学・学部ごとに異なる出題傾向や時間配分をつかむことで「相手」を理解し、今の自分に足りないものを分析して対策を打つという極めて重要な学習になります。目標の演習量は過去10年分。とりわけ難関国立・旧帝大や早慶を目指す方にいたっては、早ければ夏から第1志望校の過去問に取り組んでいるのです。一方でセンター試験の過去問は、国立・私立志望を問わず基礎力の定着を図るために行います。秋以降本格的な2次試験・個別試験の対策ができるよう、夏休み中にセンター試験の過去問も10年分演習しておきましょう。

では難関大を目指す全ての受験生がいきなり過去問演習に取り組めば、誰でも第1志望校合格を勝ち取ることができるのでしょうか。もちろんそのようなことはありません。夏から過去問演習を中心に取り組む

ことができる人は、夏前に徹底的に基礎固めを行っています。基礎がない状態で第1志望校の過去問演習だけに取り組んでも成績が上がることはありません。この夏から本格的に受験勉強に取り組む時間が取れるようになった方は、まず基礎固めから取り組みましょう。また苦手科目の克服に時間をかけることができるのも、この夏が最後のチャンスです。

無駄のない時間を過ごすためにも、明確な目標としっかりと具体化された計画、そして何よりも第1志望校に合格したいと思う強い気持ちで実行することを心掛けて夏を迎えましょう。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な学び、の情報を紹介。次回は小学校受験編。



東進TIMES  
6.1号  
「基礎力」の有  
無が及ぼす、半  
年後の成績の差  
を分析

## A. センター試験レベルの基礎固めを